

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 2 部門第 4 区分  
 【発行日】令和 2 年 8 月 27 日 (2020.8.27)

【公開番号】特開 2018-79674 (P2018-79674A)  
 【公開日】平成 30 年 5 月 24 日 (2018.5.24)  
 【年通号数】公開・登録公報 2018-019  
 【出願番号】特願 2016-225378 (P2016-225378)  
 【国際特許分類】

B 4 1 J 29/38 (2006.01)  
 G 0 3 G 21/00 (2006.01)  
 B 4 1 J 29/42 (2006.01)  
 H 0 4 N 1/00 (2006.01)  
 G 0 6 F 9/46 (2006.01)

【F I】

B 4 1 J 29/38 Z  
 G 0 3 G 21/00 3 8 6  
 B 4 1 J 29/42 F  
 B 4 1 J 29/38 D  
 H 0 4 N 1/00 C  
 G 0 6 F 9/46 3 5 0

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 7 月 20 日 (2020.7.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

VM (仮想マシン) を動作させるためのフレームワーク上で所定のアプリケーションプログラムを動作させることが可能な画像形成装置であって、  
操作手段と、

前記操作手段を使用した操作が実行されない無操作の時間を計時する計時手段と、

前記無操作の時間が所定時間になったことに応じて前記計時手段により計時された前記無操作の経過時間をクリアするとともに、前記操作手段の表示を初期化するユーザインタフェースプログラムと、を有し、

前記所定のアプリケーションプログラムを実行中に前記操作手段を介してユーザの操作を受付けたことに応じて前記フレームワークと前記ユーザインタフェースプログラムに通知する第 1 通知手段と、

前記所定のアプリケーションプログラムを実行していないときに前記操作手段を介して前記ユーザの操作を受付けたことに応じて前記ユーザインタフェースプログラムに通知する第 2 通知手段とを有し、

前記ユーザインタフェースプログラムは、前記ユーザの操作を前記計時手段が前記所定時間を計時する前に受け、前記第 1 通知手段による通知を受けた場合は前記計時手段により計時された前記無操作の時間をクリアして前記操作手段の表示を初期化しないことを特徴とする画像形成装置。

【請求項 2】

前記無操作の経過時間が前記所定時間になると前記操作手段にスライドショーを表示す

るように制御する制御手段を、更に有することを特徴とする請求項 1 に記載の画像形成装置。

【請求項 3】

前記所定時間は、画面表示を初期化する時間であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の画像形成装置。

【請求項 4】

前記ユーザインタフェースプログラムにより前記操作手段の操作情報が通知されると前記無操作の経過時間の計時が停止され、前記スライドショーが表示されていると当該スライドショーが停止されることを特徴とする請求項 2 に記載の画像形成装置。

【請求項 5】

前記操作手段の操作情報が通知されると前記無操作の経過時間の計時が初期化され、スリープ中であれば前記画像形成装置は当該スリープから復帰するように制御され、それ以前にアプリケーションプログラムが起動していれば当該アプリケーションプログラムを再開することを特徴とする請求項 2 に記載の画像形成装置。

【請求項 6】

前記無操作の経過時間が前記所定時間になると前記画像形成装置は、前記所定のアプリケーションプログラムが前記フレームワーク上で実行中でなければ画面表示を初期化するように制御されることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の画像形成装置。

【請求項 7】

操作手段と、前記操作手段を使用した操作が実行されない無操作の時間を計時する計時手段と、前記無操作の時間が所定時間になったことに応じて前記計時手段により計時された前記無操作の経過時間をクリアするとともに、前記操作手段の表示を初期化するユーザインタフェースプログラムを記憶する記憶手段とを有し、VM（仮想マシン）を動作させるためのフレームワーク上で所定のアプリケーションプログラムを動作させることが可能な画像形成装置を制御する制御方法であって、

前記所定のアプリケーションプログラムを実行中に前記操作手段を介してユーザの操作を受付けたことに応じて前記フレームワークと前記ユーザインタフェースプログラムに通知する第 1 通知工程と、

前記所定のアプリケーションプログラムを実行していないときに前記操作手段を介して前記ユーザの操作を受付けたことに応じて前記ユーザインタフェースプログラムに通知する第 2 通知工程とを有し、

前記ユーザインタフェースプログラムは、前記ユーザの操作を前記計時手段が前記所定時間を計時する前に受け付け、前記第 1 通知工程による通知を受けた場合は前記計時手段により計時された前記無操作の時間をクリアして前記操作手段の表示を初期化しないことを特徴とする制御方法。

【請求項 8】

操作手段と、前記操作手段を使用した操作が実行されない無操作の時間を計時する計時手段と、前記無操作の時間が所定時間になったことに応じて前記計時手段により計時された前記無操作の経過時間をクリアするとともに、前記操作手段の表示を初期化するユーザインタフェースプログラムを記憶する記憶手段とを有し、VM（仮想マシン）を動作させるためのフレームワーク上で所定のアプリケーションプログラムを動作させることが可能な画像形成装置を制御する制御方法をコンピュータに実行させるプログラムであって、前記制御方法は、

前記所定のアプリケーションプログラムを実行中に前記操作手段を介してユーザの操作を受付けたことに応じて前記フレームワークと前記ユーザインタフェースプログラムに通知する第 1 通知工程と、

前記所定のアプリケーションプログラムを実行していないときに前記操作手段を介して前記ユーザの操作を受付けたことに応じて前記ユーザインタフェースプログラムに通知する第 2 通知工程とを有し、

前記ユーザインタフェースプログラムは、前記ユーザの操作を前記計時手段が前記所定

時間を計時する前に受付け、前記第 1 通知工程による通知を受けた場合は前記計時手段により計時された前記無操作の時間をクリアして前記操作手段の表示を初期化しないことを特徴とするプログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

上記目的を達成するために本発明の一態様に係る画像形成装置は以下のような構成を備える。即ち、

VM（仮想マシン）を動作させるためのフレームワーク上で所定のアプリケーションプログラムを動作させることが可能な画像形成装置であって、

操作手段と、

前記操作手段を使用した操作が実行されない無操作の時間を計時する計時手段と、

前記無操作の時間が所定時間になったことに応じて前記計時手段により計時された前記無操作の経過時間をクリアするとともに、前記操作手段の表示を初期化するユーザインタフェースプログラムと、を有し、

前記所定のアプリケーションプログラムを実行中に前記操作手段を介してユーザの操作を受付けたことに応じて前記フレームワークと前記ユーザインタフェースプログラムに通知する第 1 通知手段と、

前記所定のアプリケーションプログラムを実行していないときに前記操作手段を介して前記ユーザの操作を受付けたことに応じて前記ユーザインタフェースプログラムに通知する第 2 通知手段とを有し、

前記ユーザインタフェースプログラムは、前記ユーザの操作を前記計時手段が前記所定時間を計時する前に受付け、前記第 1 通知手段による通知を受けた場合は前記計時手段により計時された前記無操作の時間をクリアして前記操作手段の表示を初期化しないことを特徴とする。